

4. 志津学区の課題

- ・志津学区では人口が増加しており、今後もその傾向は続く予測されています。一方で、市内他学区と比較すると高齢化の進展は緩やかであるものの、今後は高齢化が進んでいくと予測されています。こうした中、高齢者をはじめ、地域で生活するすべての人々が、安心・快適・便利に暮らし続けることができる持続可能なまちづくりを目指し、次の3つの視点から志津学区の課題を整理します。

生活環境

- ① 志津学区は、生活利便施設の学区全体の充足度は高い状況となっています。しかし、施設は中心市街地に近い地域ほど多く立地しているため、学区内において地域差があることから、新しくオープンする志津まちづくりセンターを中心とした生活拠点の形成を図ることが重要です。
- ② 人口の増加が予測され、他学区に比べると高齢化の進展は緩やかではあるものの、地域コミュニティの維持は重要な課題であることから、新しくオープンするまちづくりセンターの利用を促進するとともに、周辺施設等の利活用を検討することが重要です。

交通環境

- ③ 学区内を南北に走る主要地方道大津能登川長浜線には、基幹的公共交通の路線バスが走っており、交通環境は比較的充実しているが、バス交通空白地・不便地も多いことから、これらの地域の交通環境の充実が必要です。
- ④ 学区内を走っているバス路線を利用しやすくし、地域住民の移動手段を確保するため、バス停にサイクル&バスライド等の整備を行い、自転車等でのアクセス利便性の向上を図ることが重要です。

地域資源

- ⑤ 志津学区の南東部には農地が広がり、今後は基盤整備が予定されており、農業における生産性の向上や担い手育成を図るとともに、生産者との連携等により、地域の活性化が重要です。
- ⑥ ロクハ公園は市内外から年間約 80,000 人程度の来客があり、賑わいを創出しています。このことから、ロクハ公園の利活用を検討し更なる地域振興を図ることが重要です。
- ⑦ 志津学区には市内でも数少ない里山や豊かな自然環境が残されています。このことから、里山を中心に関係する機関と連携しながら、地域の活性化を図ることが重要です。

5. 基本方針と具体的な施策メニュー（令和8年3月改訂）

・草津市版地域再生計画における志津学区の将来ビジョンを更に具現化するため、生活拠点・交通環境の充実をはじめ、農水産資源・観光資源などの地域資源をより効果的に活かす施策を推進します

【 志津学区の地域再生を具現化する推進計画 】

★・・・市事業 ●・・・民間事業 ○・・・協働事業 ■・・・県事業（要望）

基本方針	将来ビジョン (草津市版地域再生計画)	番号	施策	施策内容	志津学区まちづくり計画との連携(基本方針)	施策の実施主体				短期計画(第2期)							
						市 (担当課)	民間 【役割】	地元 【役割】	県	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度	令和11年度	令和12年度		
Ⅰ生活拠点の形成	地域の生活利便性の向上や地域コミュニティの維持を支える生活拠点の形成を目指します。	①	まちづくりセンターの利活用の推進	「まちづくりセンター」の利活用を促進し、地域住民相互の交流と利用の促進を図る。	・つながりのあるまち	○ (まちづくり協働課)		○ 【センターでの地域行事等の開催】		★まちづくりセンターの利活用							
										→							
Ⅱ交通環境の充実	基幹的公共交通や「まめバス」等の補完公共交通の充実を図り、区域内や区域と「まちなか」を結ぶ利便性の高い公共交通を目指します。また、公共交通の利用がしやすくなる環境の整備を目指します。	②	補完公共交通の充実	「まめタク」について、地域住民の生活拠点ゾーンへのアクセス性を確保するとともに、まちづくりセンターの利活用と連携し、生活拠点における基幹交通(駅への交通)との乗り継ぎ利便性の向上を図る。	・安全で安心なまち	○ (交通政策課)	○ 【交通ネットワークの充実】	○ 【ニーズの集約】		★デマンド型乗合タクシー「まめタク」の運行							
										→							
Ⅲ地域資源を活かした産業の支援	志津学区に存在する様々な地域資源を活かし、実現性の高い地域振興を目指します。	③	公共交通以外の住民移動サービスの検討	更なる高齢化等による運転免許証の返納や、バス停までの移動の困難化を見据え、既存の公共交通以外の住民移動サービスについて検討を行う。	・安全で安心なまち	○ (交通政策課)	○ 【参入の検討】	○ 【ニーズの集約、手法の検討】		○さらなる補完交通手段の検討							
										→							
Ⅲ地域資源を活かした産業の支援	志津学区に存在する様々な地域資源を活かし、実現性の高い地域振興を目指します。	④	ロクハ公園の利活用	ロクハ公園において、地域内の企業や事業所等とも連携し、志津ふれあい広場などのイベントを開催することで、地域コミュニティの活性化を図り、地域への愛着と誇りを育む。	・自然とともに学び・育むまち	○ (公園緑地課)		○ 【ロクハ公園利活用】		ロクハ公園の利活用							
										→							
Ⅲ地域資源を活かした産業の支援	志津学区に存在する様々な地域資源を活かし、実現性の高い地域振興を目指します。	⑤	里山や豊かな自然の利活用	環境保全の重要性を次世代に伝える基盤として、志津学区に残る里山等の自然を地域資源と捉え、これらの資源を活かし、地域の活性化を図る。そのため、地域主体によるNPO法人等の設立の検討を進める。併せて、市が計画する(仮称)新志津運動公園の整備において、環境学習を始めとした残地森林の管理・活用等について、市と地域とが連携し、継続的な協議を進める。(第4次志津まちづくり計画書参照)	・自然とともに学び・育むまち	○ (環境政策課) (公園緑地課) (スポーツ推進課)		○ 【法人設立の検討】 【環境学習】		○里山や豊かな自然の利活用(環境学習)、法人設立の検討							
										→							
										★(仮称)新志津運動公園整備事業							
										自然環境調査		基本設計		実施設計		工事	
										指定管理者募集							

- ・施策メニューを地図上に落とし込み、図-8に示すように志津学区の地域再生をイメージ化しました。

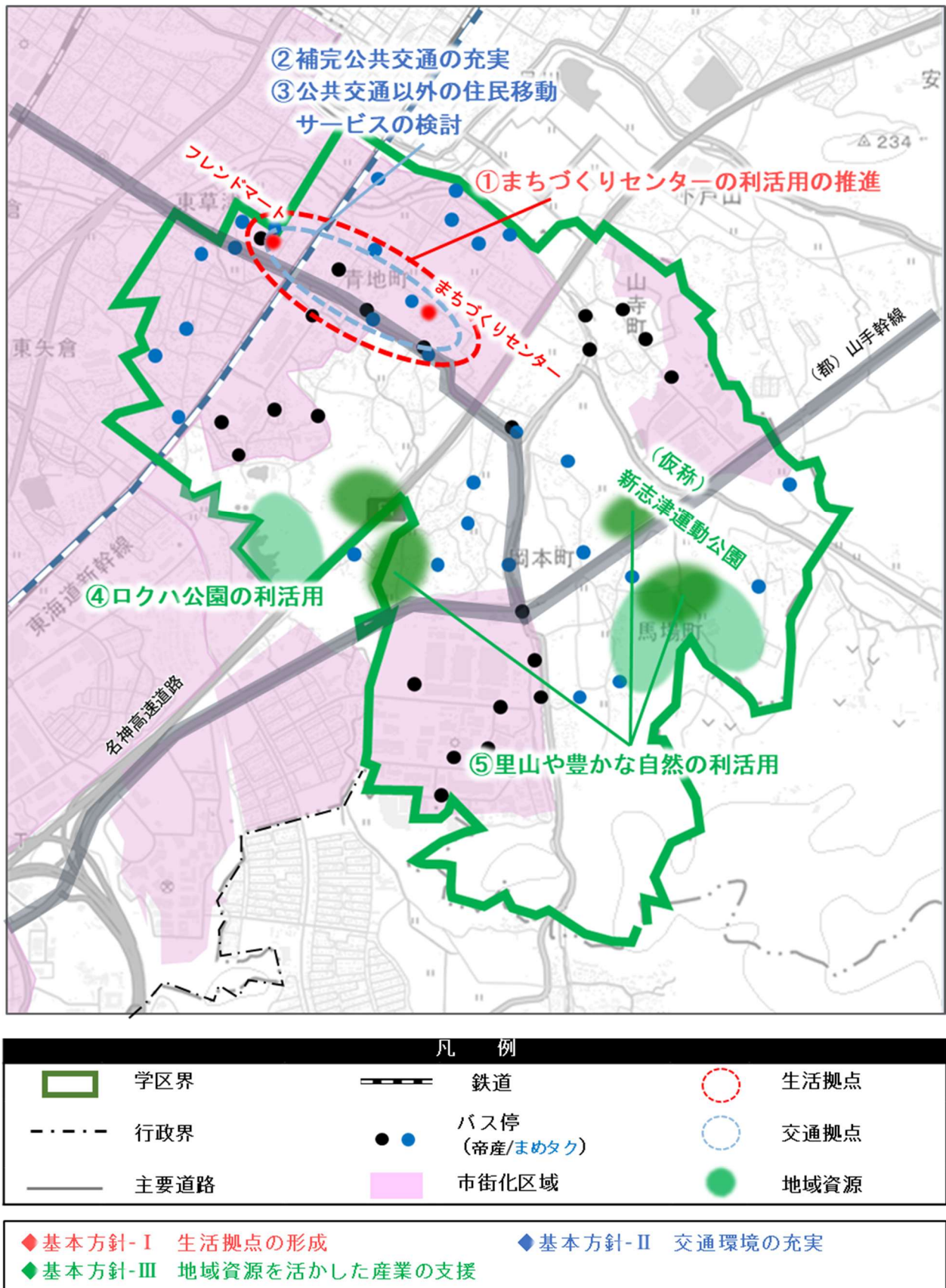
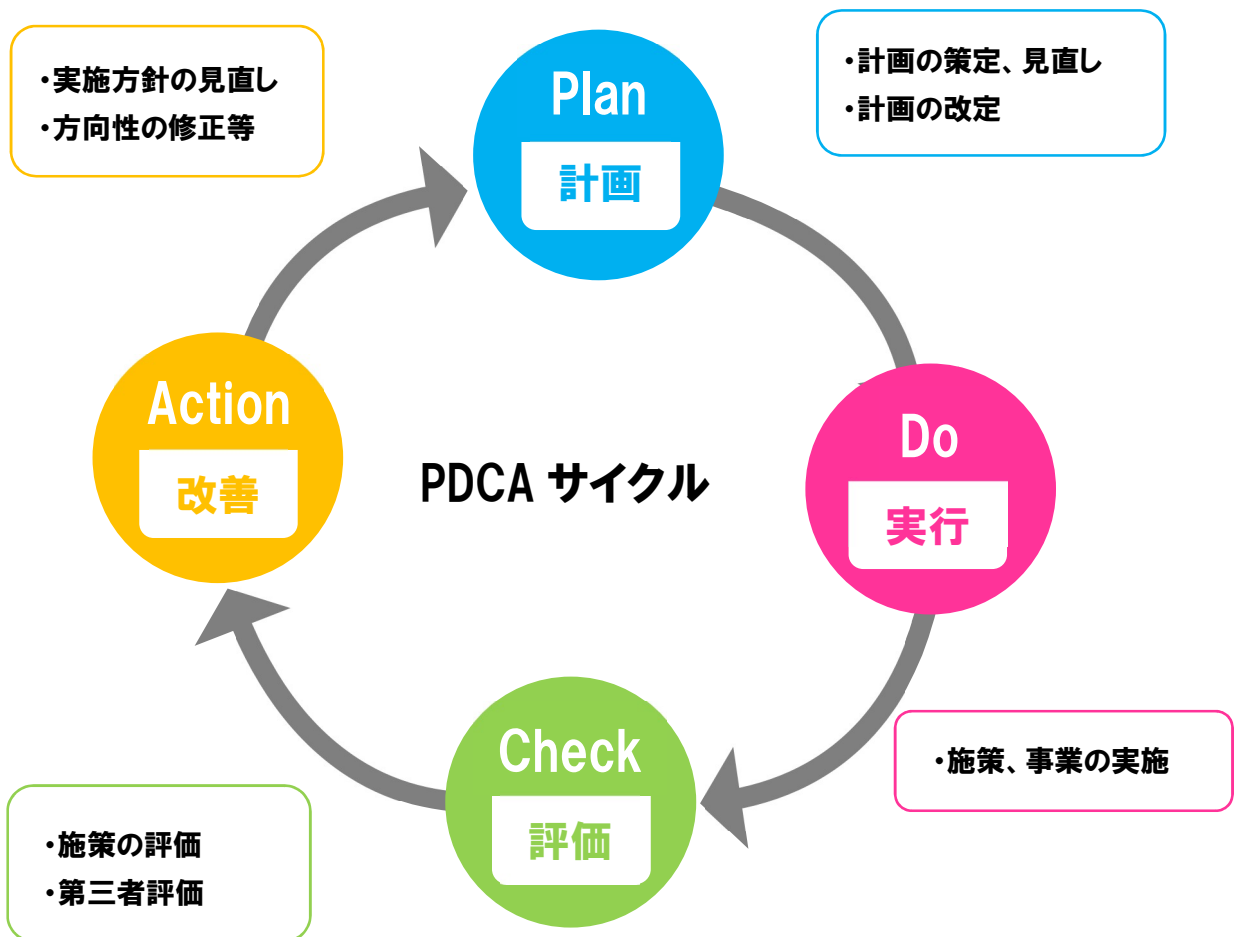


図-8.志津学区 地域再生イメージ図

6. 推進計画の進行管理

- ・草津市版地域再生計画に基づく志津学区まちづくりプランは、施策に応じて市が実施する事業・民間企業が実施する事業・地域と市が協働で実施する事業・要望により滋賀県で実施する事業など、多様な主体においてそれぞれの施策を進めていきます。
- ・(仮称) 志津まちづくり会議を設置し、地域と市が協働で実施する事業・課題について市と継続的に協議を行います。
- ・草津市版地域再生計画の計画期間は平成 30 年から令和 21 年までの長期的な計画であるため、まちづくりプランの計画期間 (5 年を目安) 終了を区切りとして、取組みの進捗状況や事業の効果などについての分析・評価を行い、PDCAサイクルの考え方に基づいて修正・見直し等を行います。



7. 志津学区まちづくりプラン策定の体制・経過

(1) 検討体制

- ・志津まちづくり協議会のまちづくり計画の改定のための委員会において、検討を重ねるとともに、草津市版地域再生計画に基づくまちづくりプランを作成しました。

(2) 検討経過

	開催年月日	主な内容
第1回	令和2年7月18日	<ul style="list-style-type: none"> ・まちづくり計画の改定および草津市版地域再生計画について ・SDGs（持続可能な開発目標）について
第2回	令和2年8月29日	<ul style="list-style-type: none"> ・まちづくり計画の改定について ・志津版SDGsについて（委員からの意見集約）
第3回	令和2年9月19日	<ul style="list-style-type: none"> ・まちづくり計画の改定について ・基本方針ごとに委員によるワークショップ
第4回	令和2年10月17日	<ul style="list-style-type: none"> ・まちづくり計画における基本理念、基本方針、活動方針について
第5回	令和2年11月21日	<ul style="list-style-type: none"> ・まちづくり計画における5つの主要プロジェクトについて
第6回	令和2年12月19日	<ul style="list-style-type: none"> ・まちづくり計画のとりまとめ ・まちづくりプラン（案）のとりまとめ